

# 中部経済新聞

2023年(令和5年) 6月20日 火曜日

発行所 中部経済新聞社 〒450-8561 名古屋市中村区 名駅4-4-10  
編集局 052(561)5212  
販売部 052(561)5216  
広告部 052(561)5213  
事業部 052(561)5675  
総務部 052(561)5215  
東京支社 03(3572)3601  
©中部経済新聞社2023  
購読のお申し込み 0120-605-123

# 女性取締役選任は55%

## 本紙調べ

## 東海の上場企業

中部経済新聞社が東海3県(愛知、岐阜、三重)に本社を置く上場企業263社を対象に調査したところ、女性取締役が1人以上選任されている企業は全体の54.8%にあたる144社に上ることが分かった。女性取締役の総数は延べ195人(兼任も含む)だった。しかし、社外から招聘(しようへい)する「社外取締役」が86.7%と大勢を占める。生え抜きなどの「社内取締役」は13.3%の26人にとどまり、内部での育成にはなお課題も多い。

# 9割が「社外」「社内」は26人

女性社外役員は「登用の広がり」で、兼任は2社まで、といった制限がなくなり、増加している。経営経験者や、DXなど成長戦略に沿う人材を求める声が多い」と実感する。

一方、女性取締役のうち、創業一族や、生え抜きで昇進するなどとした社内取締役は、13.3%の26人。管理や総務部門をみると、管理や総務が目立つ。女性の社内取締役がいる企業は22社と、全体の8.4%にとどまった。

社名	氏名	役職
あさくま	西尾すみ子	取締役管理部長
朝日インテック	伊藤瑞穂	取締役管理本部長兼経営戦略室長
井村屋グループ	中島伸子	代表取締役会長
キクカワエンタープライズ	倉井有子	取締役
クリップコーポレーション	井上壽美子	取締役新規事業部マネージャー
グリーンズ	鈴木直子	取締役人事本部本部長
	上田美代子	取締役
システムリサーチ	梅本美恵	取締役
ジャパンクラフトHD	伊藤珠実	常務取締役
セリア	三宅奈津子	取締役総務部長兼経営企画室長
デ・ウエスタン・セラピテクス研究所	松原さや子	取締役
東祥	匿名真由美	取締役副会長
	谷澤亜希	取締役秘書室長兼管理本部総務人事部長
トーカイ	松野英子	取締役調剤事業担当
トーシンHD	石田ゆかり	取締役管理本部部長
	旭萌々子	取締役社長室長兼管理本部部長
ノリタケカンパニーリミテド	夫馬裕子	取締役常務執行役員
浜木綿	山本美穂	取締役営業企画部長
三重交通グループHD	村田陽子	取締役、三交イン社長
武蔵精密工業	Tracey Sivill (トレーシー・シビル)	代表取締役専務執行役員CFO(最高財務責任者)
	宮澤実智	取締役
メルコHD	中山千里	法務部長兼監査部長(26日開催の定時株主総会後に取締役に選任予定)
レシップHD	三井紘子	取締役管理本部副部長
CDS	舞田浩子	取締役ドキュメンテーション事業推進本部中日本統括兼松本支社長
ICDAHD	松原佳代	取締役
MARUWA	森下由紀子	取締役総務室室長兼企画室室長

(注)敬称略。五十音順。HDはホールディングスの略

### 生え抜きわずか

東海3県に本社を置く上場企業263社を対象に、監査役や執行役などを除く会社法上の「取締役」の女性の数を調査した。今月の株主総会後に異動の予定があるケースでも、5月末までに公表されている情報に基づき異動後の新役員体制で集計した。

### 近年大きく変化



江口忍・名古屋学院大学教授 東海3県に女性生え抜き役員が少ないのは、①主力の製造業は男性雇用が多い②生活コストが安く、共働きの妻が高い収入を目指さない③仕事を頑張りたい女性は東京へ出ていくなどの理由からだ。これらが「女性は補助的な仕事」につながっている。ただ、特に①と②は近年大きく変化している。現在女性役員に社外が多いのは女性役員比率を上げる、数合わせの対応だが、女性は補助的仕事という意識は薄らいでいる。女性社員に経営感覚を伸ばす機会を積極的に与えることで、女性役員は増えていくのではないかと見込んでいる。



### プロパー育成が不可欠

内田俊宏・中央大学客員教授 日本株の上昇を支えている海外投資家が女性取締役ゼロの企業に対して厳しい視線を向けており、経営陣が選任されないリスクも今後出てくる。多様性に欠ける企業は、経営環境の変化に弱く、業績への影響も大きくなる。多様な商品・サービスの開発や新規市場開拓の重要性が増しており、持続的な発展が見込みにくい企業への投資が減少する。

**マイウェイ my way**

経営者が語る「自分史」最終面で好評連載中  
コラム代表取締役会長 新美文二さん

きょうの紙面

総合 2面  
トヨタ車体、東京に商用車の架装専門店開設

総合 3面  
「上場企業分析」東祥アフターコロナ対応型の店舗開発

名古屋 4面  
折兼、植物由来のバガス製容器大手外食デリバリーに採用

三河・静岡 6面  
岡通商事、人工芝販売に参入教育機関などへ提案

10カ月ぶりに中国利下げか

製造業中心に回復遅れ

【北京共同】中国人民銀行(中央銀行)が事実上の政策金利である「ローンプライムレート(貸出基礎金利、LPR)」を20日に引き下げるとの見方が強まっている。製造業を中心に新型コロナウイルス禍からの回復が遅れているため、引き下げれば昨年8月以来10カ月ぶりとなる。

LPRの1年物は金融機関の貸出金利の基準となり、現在は3.65%。引き下げれば資金繰りが悪化した企業に融資を促す効果がある。人民銀行は15日、LPR算出の目安となる市中銀行に資金を供給するための「MLF(中期貸出制度)」の金利を0.1%引き下げている。